

社会教育通信

師走号



研究集会に参加して

その日の朝は、台風二十六号の影響か雨だった。十月中旬に富良野市で第三十五回全国公民館研究集会 in 富良野北海道兼第五十七回北海道公民館大会に上杉館長、大村主事、島崎委員の四人で出席した。

弟子屈を過ぎたころ、対向車の屋根に雪がついているのに驚いた。阿寒横断道は雪で白くなり積もっており、上に進んで行くと、乗用車が数台停車していた。前方にスリップしたのか貨物車が道を塞いでいた。我らの車は冬タイヤであったが、状況を確認するため前に歩いた。乗用車はほとんど夏タイヤで、外国人の女性二人が乗った車の一人がダウンジャケットを羽織り、外に出て不安な顔をして

☆発行日☆

2013. 12. 18

☆発行☆

別海町教育委員会

生涯学習課

●TEL
0153-75-2111
(内線3711)

●FAX
0153-75-0637

●E-mail
syougai@betsukai.jp

雪を眺めていた。声をかけると「雪なんか信じられないわ、どうしたらいい」と片言で言っていた。私は何も答えることができなかった。ラジオの情報では日勝峠は朝から通行止めであったが、狩勝はまだのようだった。雪道で時間がかかりなんとか足寄で昼食を取った。狩勝峠に向かったが通行止めであり、駐車場横の白樺、松の枝が雪の重みで垂れ下がっていて、大きな音を響かせ折れたのには皆驚いた。台風の影響で低気圧が発達したのだろう。一ヶ月も早い大雪となった。

見通しが立たないため、道東道で金山峠のルートで向かうことになり、気持ちのギアを入れ替えた。途中数え切れないほど木が倒れ道路を塞いでいる峠を過ぎてからは、何度とない停車を繰り返し、車中泊も覚悟した。

皆無言で悲観的な言葉は言えない状況だった。途中の集落は真っ暗で、何台も電気修理車が止まっていた。遅れることをホテルに連

絡。富良野は雨の情報で安心した。ホテルに着いたのは出発してから十時間以上が過ぎていた。当然疲労困憊のはずだが、皆で試練を乗り越えてきた達成感と無事到着した安堵感で疲れを感じることもなく、早々に夕食を済ませ床に就いた。



車内からの風景

一日目は「地域を育む公民館活動」をテーマに富良野文化会館で開催され、倉本聰氏の記念講演が行われた。余談であるが、この研究集会で倉本さんを昔から知っている方と出会った。ニッポン放送在職中、いろいろ悩んでいるときに出かけた札幌の居酒屋で隣に座った富良野の方と意気投合し、次の日すぐに富良野行の汽車に飛び乗り、目にした風景、人々の生活に一目惚れ、即山奥に移住し、その後塾を創設して今に至っているとのことだった。

倉本氏の講演は、演台に立っての二時間、水を少し口に含んだだけで、移住した当時のことや、夜は獣が鳴き、風の音、木が擦れあい揺れる音、自分の手も見えないほど暗くて

不安な生活体験を面白く表現された。

再生不能なものは造らない資本主義やゴールのないマラソンを例えた高度成長時期について話され、第一次高度成長時期については洗濯機・冷蔵庫・白黒テレビと話され、第二次・三次とお話が続いた。

その後、富良野塾創設の苦労話や創造、創作の重要性、環境問題を考え行動する作家たちとのグループ自然文化創作会議を設立し、議長を務められている話が続いた。また、地方の公民館を使用しての講演時のことに触れ、余り使われていなくてカビ、ほこりがある公民館では、積極的に講演等に出席される館長は少ないという話もあった。管理者が利用者の立場になって考えている公民館は変わるだろうし、担当者は考えさせられたのではと感じた。倉本氏の言葉は、時間経過とともに快活になり、声のトーンも変わらず、休憩なしでも長くは感じなかった。

二日目は、五つの分科会に名を変えたスパー塾があり、私は太田塾に出席した。太田塾は富良野演劇工場で開催され、参加者が百人ほどいた。工場とは演劇を創作するための場であるとの由来から、十三年前に建設された全国初の公設民営劇場で、倉本氏が関与

し森の中に建設された。客席三〇二席と少なく、舞台は上手下手袖舞台である。リハーサルルーム等がある一枚の舞台であり、舞台下の出演者用控室や、移動がスムーズにできるスロープ付き舞台などユニークな造りとなっており、わが町にもこのような施設があれば町民も喜ぶだろうと感じた。太田塾長の講演は自己紹介から始まり、自分が関わるに至ったことやふらの演劇祭りが今年で十一回目を迎え、富良野塾OBの俳優が演劇指導を行っていることなど、俳優らしい語り口で楽しく聞くことができた。

坂田前盛岡公民館長の実践発表は、「震災からの復興と文化による新たな地域づくりへ」というテーマで、公民館再生へのチャレンジについての施設の役割、公民館の芸術文化の役割が避難住民を癒し、文化活動を披露することで復興の役割を成していることの重要性について発表された。参加者による意見交換では、各地の実践発表の中で、太鼓の指導で「あなたが必要なですよ」と言っていることにより幼児から青年までが付いて来たことなど、文化活動を核としたコミュニティづくりを学んだ。

私は、今回の研究集会出席は往路を含め今

まで経験したことのないことであり、多くのことを学んだ。また、今後についても社会教育委員として推薦していただき委嘱を受けた時のことを忘れず、多くの研修会等に出席して研鑽を積み文化活動の活性の一助になればと思う。



私が取り組んでること

現在私が取り組んでいる仕事以外の事についてこの紙面をお借りして二点書かせていただきます。

一点目は、音楽活動です。自ら楽器も演奏しますが公民館と協力して行うコンサートの招へいです。実行委員会を組織し町民に生の音楽を聴く機会を提供し、町の音楽文化の資質向上と振興を目的として年に二回開催し、毎回一二〇〜一五〇名の集客ができるようになります。町民に定着した存在となってきています。人口の1%にも満たないですがこの数字、

その自治体の人口における比率としては実は消して少ないわけではなく本町のように市街地が西、東、中央と分かれている特異な中で健闘している事業だと思えます。

二点目は、郷土資料館と協力して現在本町の基幹産業の一つである酪農の歴史を大型のパネル写真、文献、資料等を展示することによって町民に認識して貰うために閉校になった小学校の一部を利用して「根釧パイロットファーム開拓資料室」を準備中です。現在、本町には、基幹産業である、酪農、漁業を過去から現在に至るまでの経過、そして現在の最先端の技術など、地元の町民は元より町外から訪れて知識、情報を得る場所がありません。そのような視点からも必要な事だと認識して三年前から運営委員会を組織し取り組んでいます。

社会教育委員の命を受けたことを機に様々な場面で委員の皆様のご意見などを参考にさせて頂きたいと思えますのでよろしくお願致します。



社会教育委員となって

私が社会教育委員になって、初めて出席させて頂いた会議は、とても緊張しました。普段会議というものとはまるで縁がない暮らしをしているので、スーツを着た多くの方々の報告を、体を力こちこちに強張らせ、懸命に聞くのが精一杯でした。初めにお話しを頂いた時、町の様々な行事等に参加して感じた事を遠慮なく意見としてあげて欲しいと言ってもらい、感想を言うだけならば私にも出来るかもと思ひ、引き受けさせて頂きました。でも、一回目の会議で、行政の方々の報告を聞くにつれ、沢山の検討や工夫・苦勞をされて、行事が行われているのだと知り、私のぼんやりとした感想を述べる雰囲気ではないと思い、ただ聞く事で時間が過ぎました。ここはこうして欲しいという単純な要望も、単に私個人やその周辺の友人と言った狭い関係の中での感じ方や要望であって、行事を作り上げている方々に言うべきことでは無いのでは？と思うと手を上げて意見をいう事は出来ませんで

した。ただ、私個人も小さいながらも、イベントをした時にはお客さんとなる方々の、素直な意見を聞いてみたいと思うので、やはり、勇気を出して発言すべきだと思ってもいます。ただ、やはり会議の場で発言する事はなかなか難しく、もし、出来るのであれば社会教育委員だけで、意見交換できる場があれば、もう少し多くの意見をまとめる事が出来るのではないかと思います。

最後に、こうして社会教育委員というお話を頂かなければ、知る事のなかった事柄も知る事が出来てとても嬉しく思います。これからもよろしくお願ひします。



つづきあいたい *つづきあいたい*

十二月は、師も走るほど忙しい月と言われていますが、師が走るならば私は全力疾走しなければと意気込んだものの、息切れをして休憩しているところです。まったくもって本末転倒です。

今年の冬も寒くなると言われていますので、皆様ご自愛の上、よいお年をお迎えください。

* お知らせのコーナー *

平成26年(第66回)別海町成人式

平成26年1月7日(火)別海町中央公民館



13:30~14:45
14:45~16:30

成人式式典
実行委員会によるアトラクション

※荒天の場合は8日(水)に順延いたします

そうだったのか! 社会教育&公民館 Vol.2

このコーナーでは“社会教育”“公民館”にまつわる疑問・質問を解決していきます!

Question2

社会教育委員の活動をしていると、ときどき「社会教育とは?」と聞かれ、説明に困ることがあります。どのように説明すると分かりやすく、理解してもらえるでしょうか?

皆さんからの
疑問・質問もお待ちしています!

“住民の『学びたい!』の気持ちに応えること”

思い切って一言でまとめてみました。いかがでしょうか?

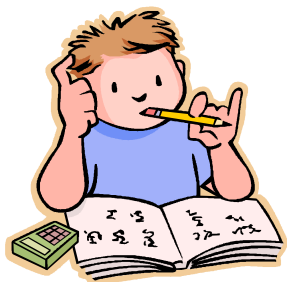
もう少し詳しく言うと、社会が住民の『学びたい!』に応えられるような学習機会(=気持ちの受け皿)を提供して住民に学習してもらうことです。

みなさんは、日常の中で何かを知りたいと思ったり、何かができるようになりたいと思ったりすることはありませんか?じつはこれが、社会教育の始まりなんです。

例えば、『英語が話せるようになりたいから英会話教室に行く』『体を動かしたいからスポーツセンターで行っているヨガ教室に行く』など、民間企業や行政が提供する講座・教室に住民が参加し学習することが、社会教育となるのです。

これを社会教育委員・公民館運営審議会委員の役割と結びつけて考えると、社会教育委員・公民館運営審議会委員の皆さんには、行政の提供する講座・教室などの学習機会が、住民の求めているものと合っているかを直接考えてもらっていることとなり、社会教育を考える上でとても重要な役割が任されているのです。

私たち教育委員会では、少しでも住民のみなさんの希望に沿った“受け皿”を提供することを目指しています。だからこそ、住民のみなさんの意見を少しでも多く私たちにお聞かせください。



(参考文献)・社会教育委員のためのQ&A(社団法人 全国社会教育委員連合)

・よくわかる公民館のしごと(社団法人 全国公民館連合会)

編集: 山田 恭子